

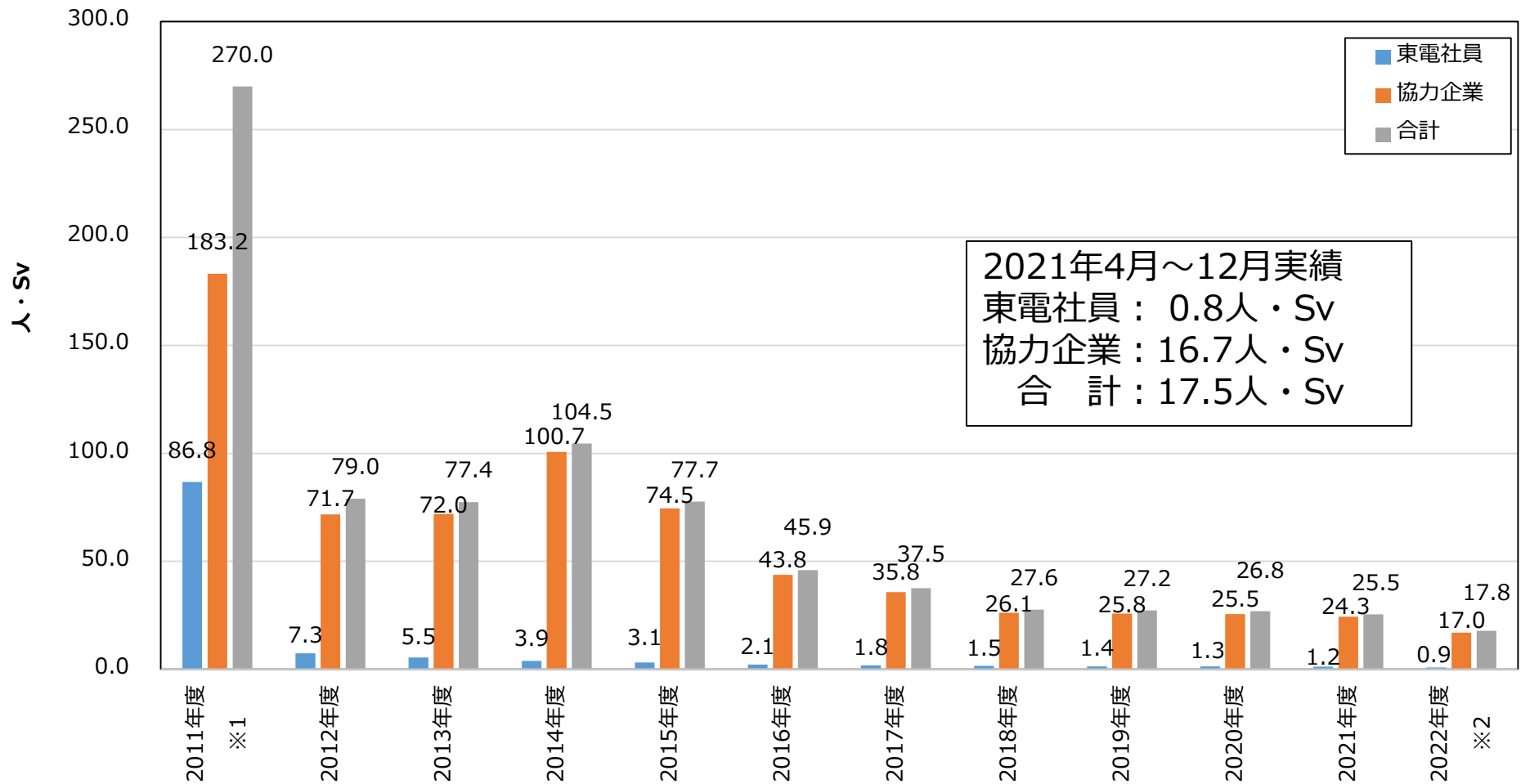
福島第一原子力発電所 従事者の被ばく線量全体概況について

2023年2月16日

東京電力ホールディングス株式会社

①発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（総実効線量）

■ 総実効線量は年々低下している。2022年度においては前年度同時期と同程度となっている。

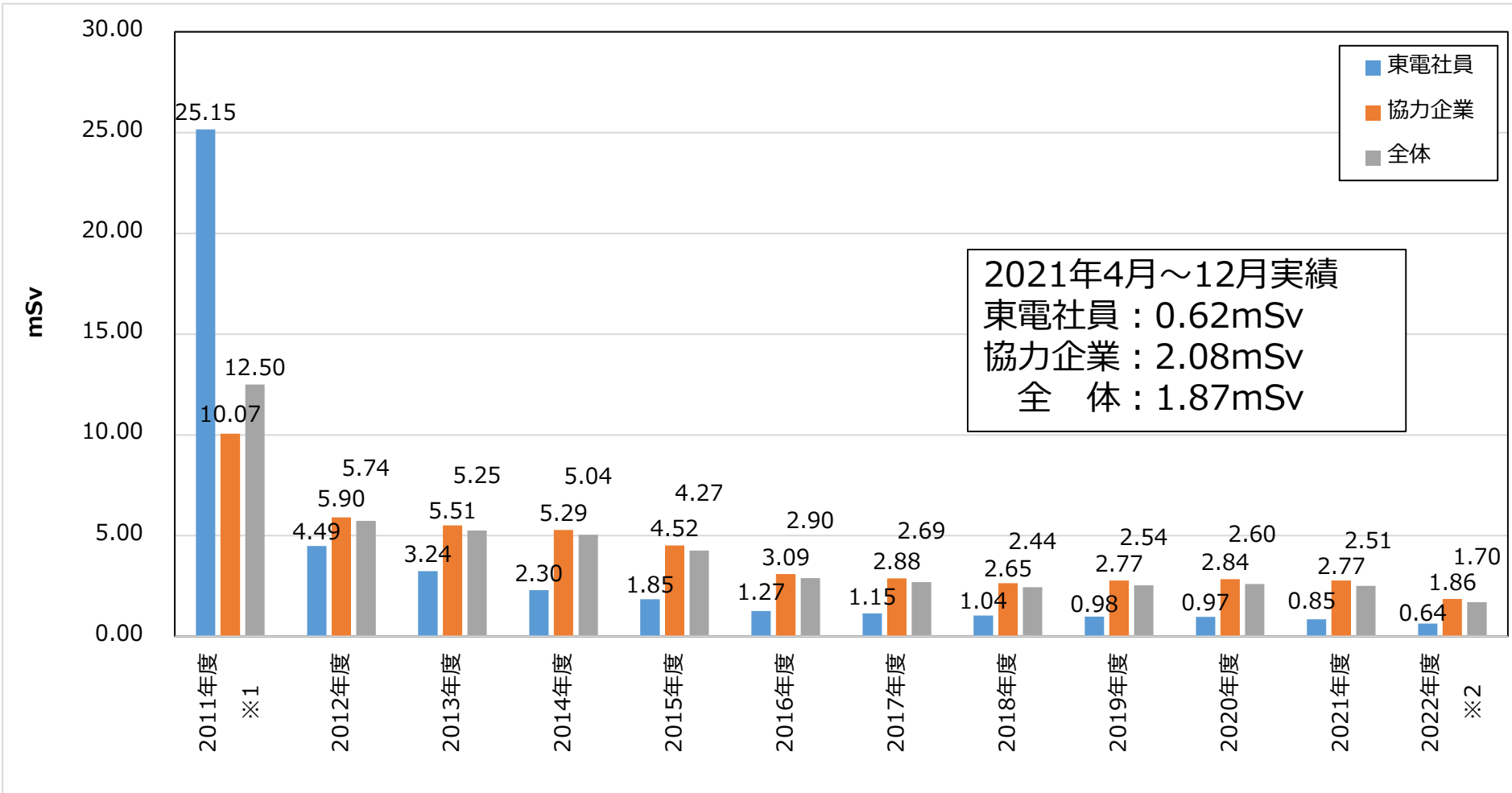


※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2022年度は12月の暫定値迄を使用

②発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（平均線量）

- 平均線量は近年同程度の値となっている。2022年度においても前年度同時期と同程度となっている。

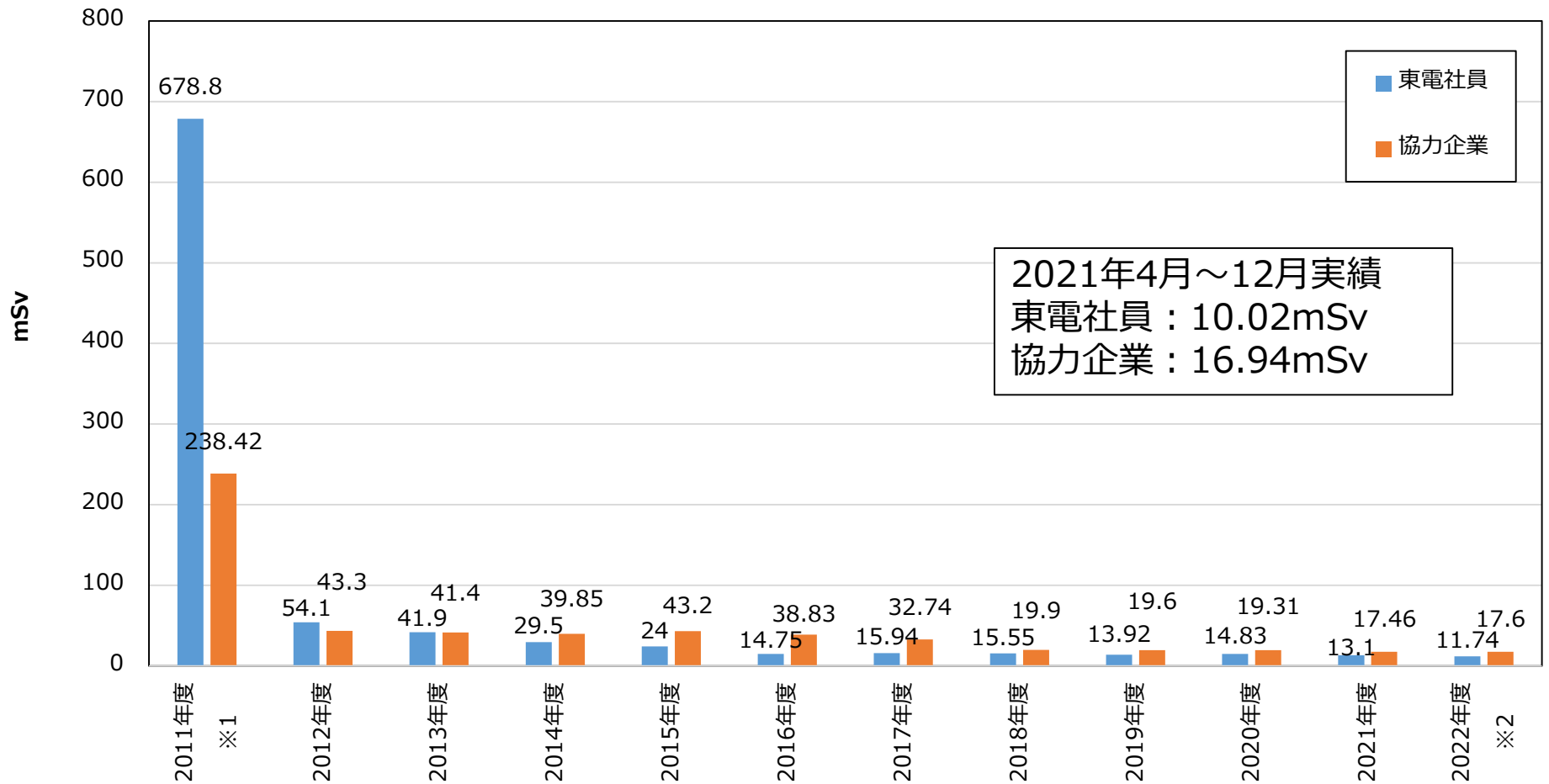


※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2022年度は12月の暫定値迄を使用

③発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（最大線量）

- 最大線量は年々低下している。2022年度においても前年度同時期と同程度となっている。

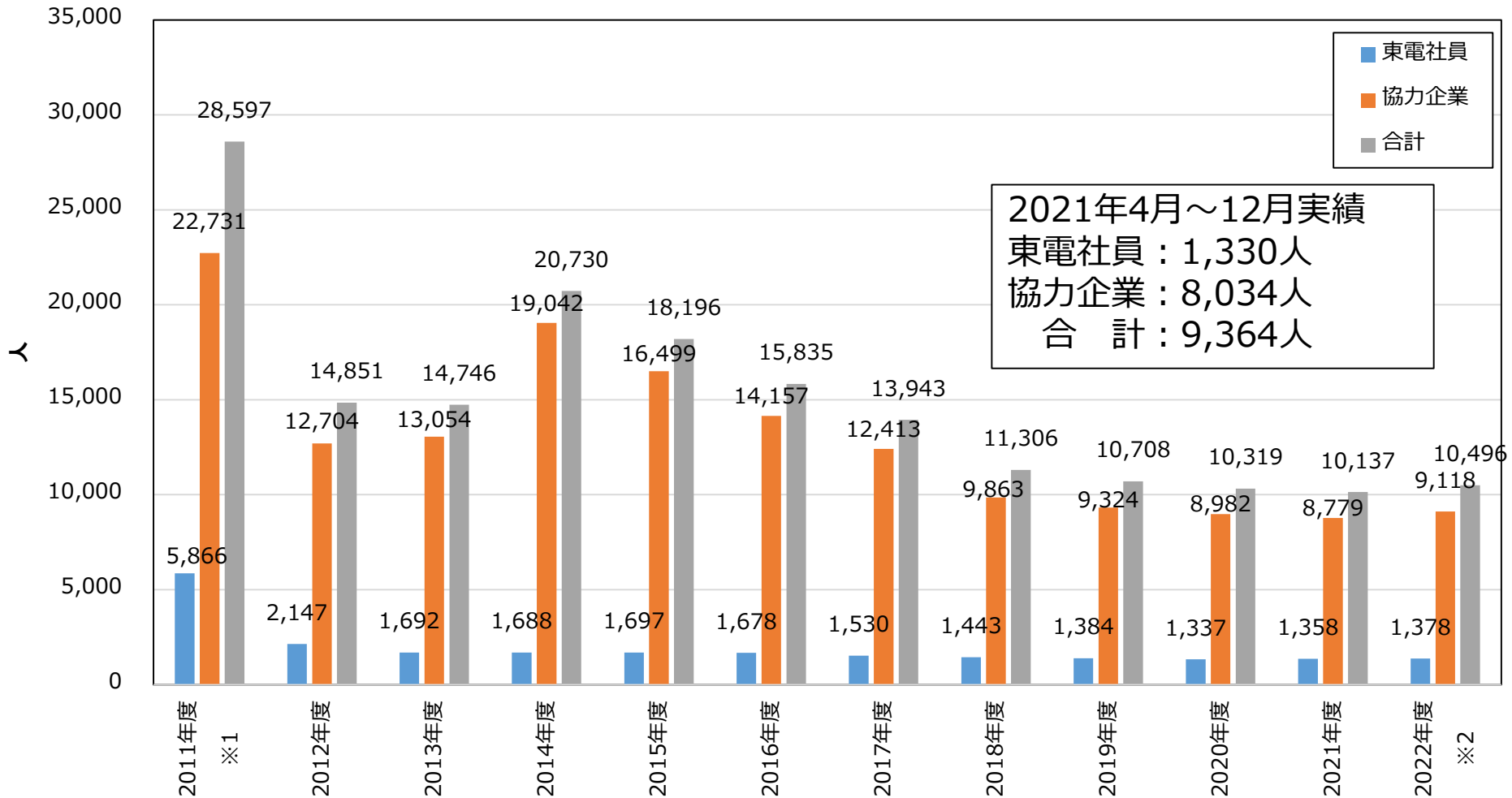


※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2022年度は12月の暫定値迄を使用

④ 発災以降の年度別放射線業務従事者数

- 2022年度の従事者数については、12月末現在で昨年度の実績を超えており、ALPS処理水関連の作業が増えたことによるものと考えられる。



※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2022年度は12月の暫定値迄を使用

⑤放射線業務従事者の累積外部被ばく線量 2022年度

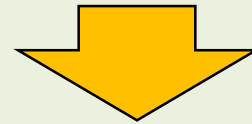
区分(mSv)	2022.4月～2022.12月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0
10超え～20以下	4	334	338
5超え～10以下	31	906	937
1超え～5以下	200	2,072	2,272
1以下	1,143	5,806	6,949
計	1,378	9,118	10,496
最大(mSv)	11.74	17.60	17.60
平均(mSv)	0.64	1.86	1.70

○2022年度（2022.4月～2022.12月）に作業実績のある10,496人のうち

10,496人（100%）は50mSv以下

10,496人（100%）は20mSv以下

9,221人（87.9%）は5mSv以下



○全ての作業員について被ばく線量は線量限度内(50mSv/年)で管理。

○2011.10月以降、有意な内部取り込みは認められていない。

※2022年12月分のデータは暫定値を使用

⑥2021年4月1日を始期とする5年間の累積外部被ばく線量

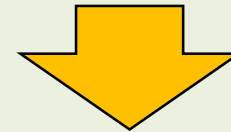
区分(mSv)	2021.4月～2022.12月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	2	300	302
10超え～20以下	38	1,263	1,301
5超え～10以下	87	1,190	1,277
1超え～5以下	288	2,417	2,705
1以下	1,132	6,143	7,275
計	1,547	11,313	12,860
最大(mSv)	21.13	32.86	32.86
平均(mSv)	1.32	3.65	3.37

○2021.4～2022.12に作業実績のある12,860人のうち

12,860人 (100%) は100mSv以下

12,860人 (100%) は50mSv以下

12,558人 (97.7%) は20mSv以下

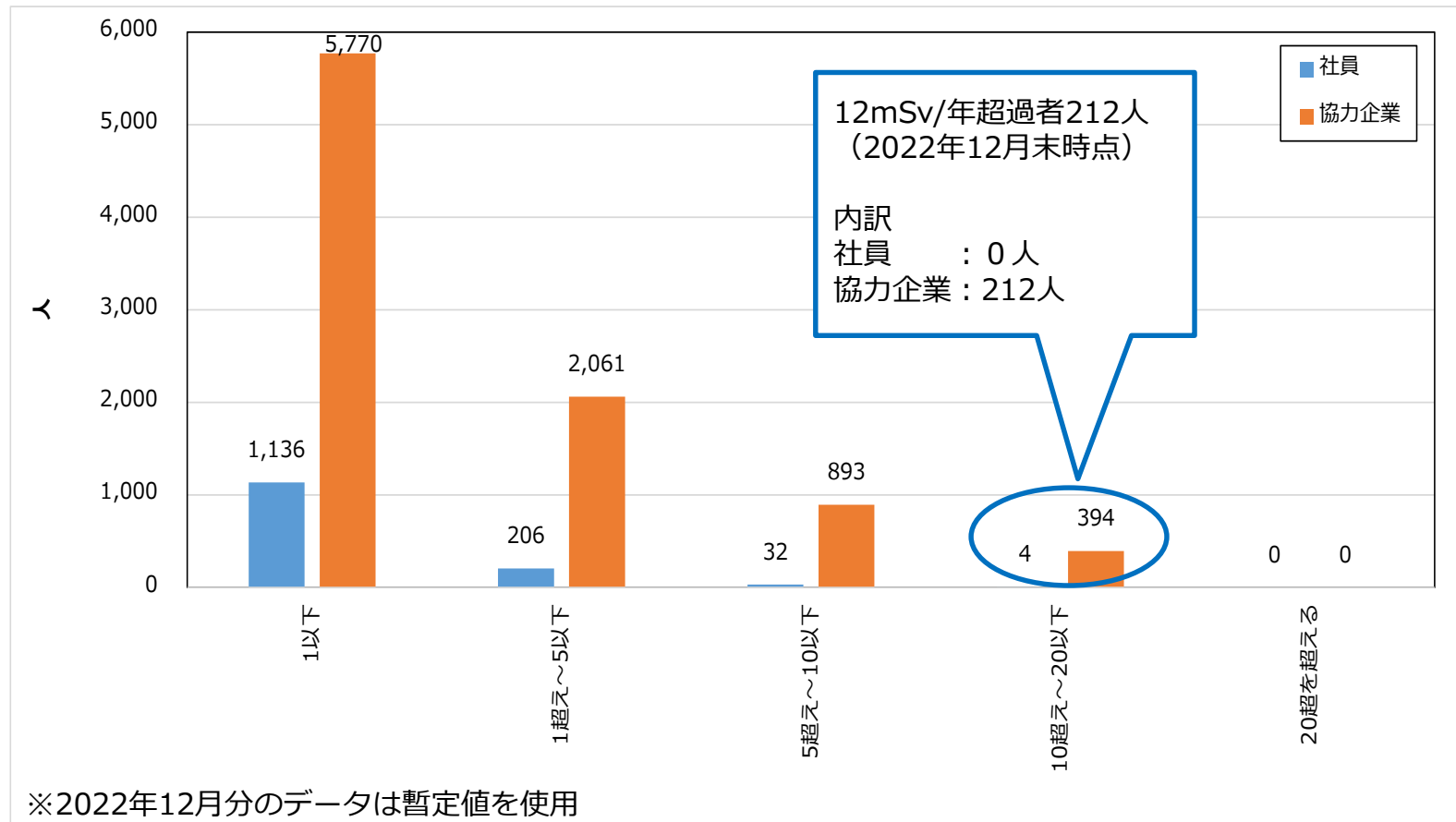


○全ての作業者の被ばく線量については、100mSv/5年の線量限度を超えないよう、発電所では80mSv/5年の管理をしている。

※2022年12月分のデータは暫定値を使用

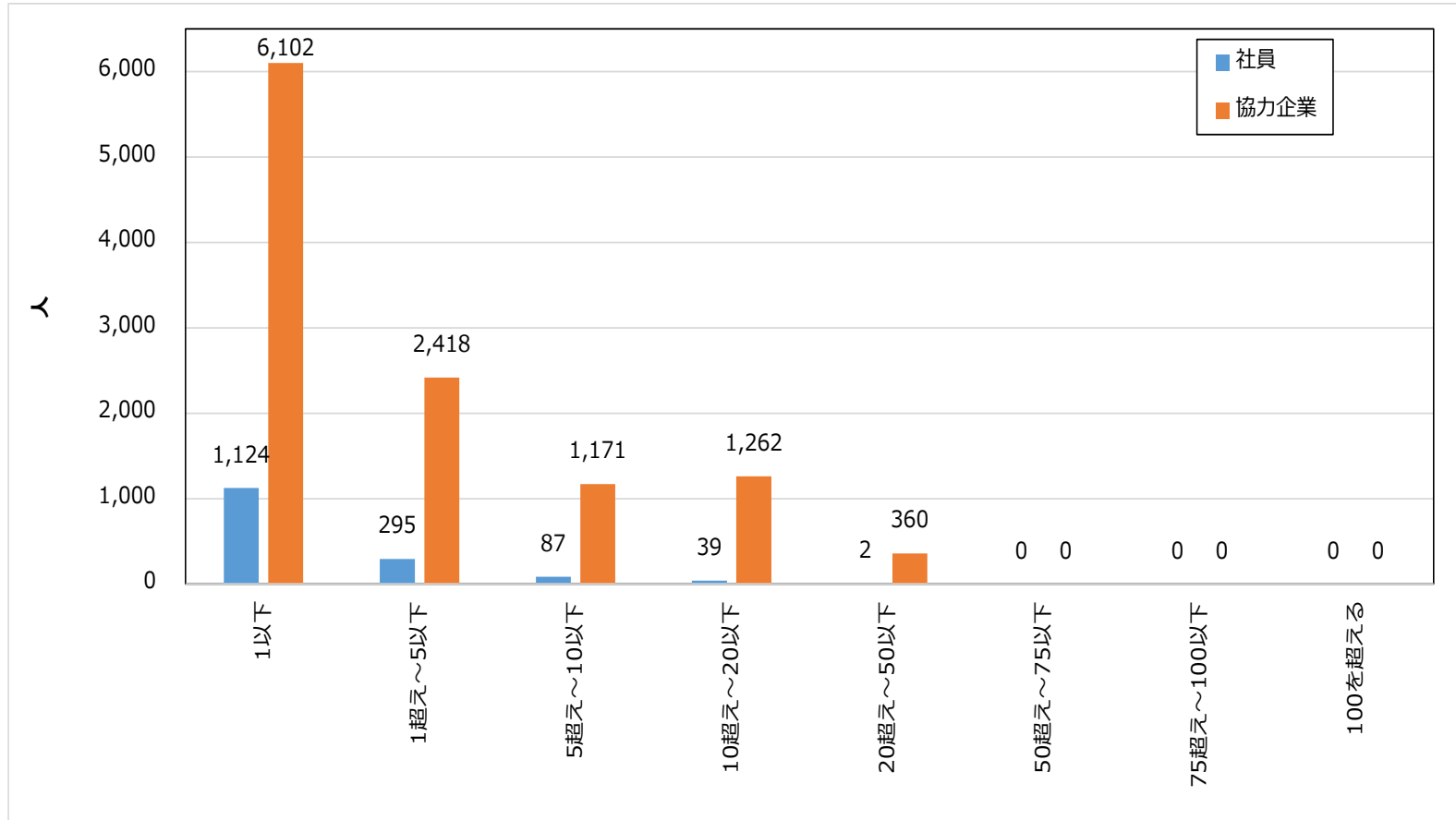
⑦眼の水晶体 累積等価線量分布（2022年度）

- 2022年度の眼の水晶体の最大線量は、19.00mSv。
- 眼の水晶体の等価線量が12mSv/年を超える作業を計画した段階、または超えたことが確認された段階で、眼の水晶体の等価線量を、眼の水晶体近傍（又は頭頸部）での測定を開始している。



⑧ 2021年4月1日を始期とする眼の水晶体5年間の累積等価線量分布

- 2021年4月1日を始期とする眼の水晶体5年間累積等価線量の最大線量は、32.45mSv。
- 全ての作業者の眼の水晶体の等価線量については、100mSv/5年の線量限度を超えないよう、発電所では80mSv/5年の管理をしている。

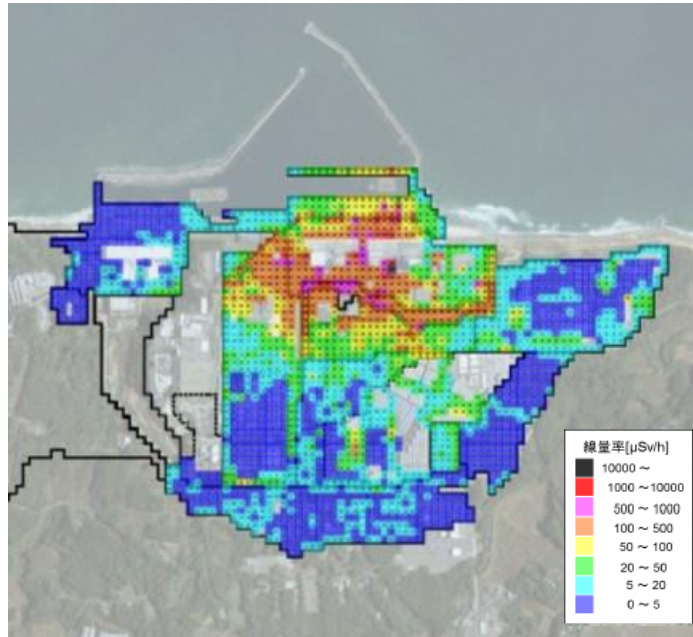


※ 2022年12月分のデータは暫定値を使用

⑨環境線量率の低下

- 構内の環境改善によって、構内全域にわたって環境線量率が低下している。
2022年度時点で、構内の約96%が全面マスク着用を不要とするエリアとなっている。

2014年度



※ 空白部分は未測定エリア



2022年度

